

令和2年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	フェローホームズ		施設番号	K127
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和2年度)	改善計画 (令和2年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和3年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があつた場合の実施状況 (令和3年4月30日時点)
利用者サービスの向上について	<p>・高齢者が高齢者になる家を目指すための課題として、①業務改善②情報共有③職場教育が考えられる。特に業務改善は、会議やMTGから現場における具体的なオペレーションまで検討し、効率化からご利用者と向き合う時間を創り出す事、最終的には生産性の向上を図ることで課題解決に繋がられる。</p>	<p>・業務の見直し ・ICT機器導入 ・ICT機器操作の研修を外部に依頼して実施 ・各委員会の開催見直し</p>	<p>1 実施済み</p> <p>具体的には以下のとおりです。 ・ICT 機器を導入し、毎月記録小委員会、見守り小委員会、インカム小委員会を開催し、機器の取扱いルールを作成するなど、プロジェクトを進めることが出来た。 ・職員からもICT機器について使いやすい、効率的であるなどの肯定的な意見が多く見られている。 ・記録媒体に関しては全職種がPCに移行し、情報共有や確認など時間削減に成功している。 ・引き続き、検証の結果を基に効率化により生まれた時間をご利用者の幸福度向上のために、どのように使用していくかを基本ケア方針にあてはめながら、今後も進めていく。</p>	<p>1 実施済み (年 月)</p> <p>具体的には以下のとおりです。</p>
利用者サービスの向上について	<p>・トータルケアの手法を用いて科学的根拠に基づいたケアを行ってきたが、介護の専門職として真に必要な直接介護等に時間をより充てられるように、ICT挿入・活用により業務改善を図る必要がある。</p>	<p>・Wチェックの質を向上していくために、多職種協働での速やかなケア記録システムの活用が必要である。また、職員間の連携や業務負担の軽減のためのインカムの導入や見守り支援機器の有効活用と、ケア記録システムやPHSと連動させ、サービスの質の向上と職員の誰もが同様に対応できるケアの標準化が重要である。</p>	<p>1 実施済み</p> <p>具体的には以下のとおりです。 ・各専門職がご利用者支援の3つの目標を達成する意図を共有し、これまで培ってきたトータルケアのノウハウとICTや福祉機器を有効活用するとともに、Wチェックカンファレンスをタイムリーに行う中で、科学的根拠に基づいた個別ケアを提供することで、食事や排せつ、生活機能の維持向上が図られ、ご利用者の健康な生活に繋がっている。また、ICTや福祉機器の導入と、ご利用者の健康面の維持により、職員の負担軽減にも寄与している。</p>	<p>1 実施済み (年 月)</p> <p>具体的には以下のとおりです。</p>

※この様式は、「令和2年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めていま

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。